

1998年2月25日

いすゞ、「使用済み自動車リサイクルに関する自主行動計画」を策定

いすゞ自動車(株)は、この度、新たに「使用済み自動車リサイクルに関する自主行動計画」を策定し、自動車リサイクルへの取り組みを一層強化推進していくこととした。

この「自主行動計画」では、具体的目標として

1.1997年時点で85%まで向上させてきた新型車リサイクル可能率を、2002年以降の新型車では90%以上に向上させる。

2.新型車における鉛の使用量を2000年末までに1996年の二分の一以下、2005年末までに1996年の三分の一以下に削減すること等を掲げている。

また特にいすゞの主要商品である商業車においては、リサイクルへの寄与率が高いトラックの木製荷台の処理に積極的に対応していく。木製荷台について、既にいすゞは南洋木材の枯渇による環境問題に対応するため、中型トラックにおいて使用済み樹脂バンパのリサイクル材を使用し、荷台アオリに再生している。

また木製荷台の、100%リサイクル材を利用した人工木材やポリオレフィン系樹脂材料への置換を検討しており、リサイクル率の向上を図っていく。

いすゞは、かねてより地球環境保全への取り組みを21世紀に向けての重要課題として位置づけ、「いすゞ地球環境憲章」(1992年策定)、「いすゞの地球環境取組計画」(1993年策定、1996年改定)に基づいて、リサイクル活動を推進してきた。今回、この取組みをより一層推進するために、新たに「自主行動計画」を策定し、リサイクルに関する事業活動を、より具体的かつ積極的に行っていくこととした。また、今後は既に販売した車や継続生産車への対応についても、関連業界との連携により、リサイクル促進のための技術開発や情報提供を積極的に行い、地球環境保全に貢献していきたいと考えている。

以上

使用済み自動車リサイクルに関する自主行動計画の概要

分類	項目	内容
新型車のリサイクル性向上	リサイクルに適した材料の採用拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・熱可塑性樹脂材の使用比率向上 ・トラック荷台、ラジエーター、エンジン、トランスミッション等へのアルミ採用比率向上
	解体、分別処理の簡易化	<ul style="list-style-type: none"> ・100g以上の樹脂部品に対して材質判別を容易にする識別マーキングをつける
	トラック木製荷台のリサイクル性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済み樹脂バンパのリサイクル材を中型トラックの荷台アオリへ再生 ・小型トラックの荷台根太材質を木製から鉄製へ変更
	鉛の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛の使用量を2000年末までに1996年の1/2以下、2005年末までに1996年の1/3以下に削減
	エアバッグの車上作動処理容易性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーネス被覆及びハーネス保護カバーの色をメーカー統一の黄色に変更 ・廃車時のエアバッグ処理実施率向上のため1999年以降の新型車から各社統一のエアバッグ一括作動ツールを搭載
既販売車と継続生産車への対応	技術開発と情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック、ウレタン、ゴム、ガラス等のリサイクル技術開発推進 ・シュレッダーダストの削減と有害物質の除去に関する技術開発推進
	リサイクル品の用途拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・PPバンパの中型トラック荷台アオリへのリサイクル ・100%リサイクル材利用の人工木材やポリオレフィンを利用したトラックの木製荷台開発
	適正処理推進への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・エアバッグインフレーター適正処理への協力 ・カーエアコン用特定フロンの適正処理システム構築 ・使用済み自動車の適正処理に関する管理表制度への協力